

今年は秋がなくそのまま冬に入ってしまったような北風の舞う寒い日が続いています。  
ある本にこんな話が載っていました。

超大型台風が関西を直撃したときのことである。

大阪のある学校では不気味にきしむ校舎で先生も生徒もどしたのか途方に暮れていた。その時1人の教師が敢然と立って叫んだ。「みんななぜに向かって外に出る」生徒たちは外へ出た。しかしたちまち風に吹き飛ばされて風下に行ってしまう。「それではダメだ。はって田んぼへ出て稲にすがって進むんだ」教師の剣幕に驚いて子どもたちは田んぼに出て稲につかまって進んだ。まもなく大音響がとどろき校舎が風下へ倒壊したが1人の死傷者もでなかった。人生また然り。大勇士の覚悟で苦難に向かえばよい。世の中気に食わぬことが山ほどある。家庭や職場での人間関係の煩わしさ。そのうえ、不幸や災難、病気にもに襲われる。いずれも苦しませるか、悲しませるか、傷つける。喜ばせるものは少ない。

そんなとき「ここだなあ」と思ってみたらどうだろう。

忍耐は「ここだなあ」と思い出せば苦労も軽くなる

親切というのは「ここだなあ」と思えば、嫌味なく接せられる。

勇気とは「ここだなあ」と思えば許せぬことでも許せるようになってくる。

「ここだなあ」の稲にすがって苦難の嵐に向かって、一步でも前進したいものです。

参加者からは悪いことが早く分かって良かったと思えばいいのではないか。治療中は先々のことを考えると気持ちが落ち込むのできょう元気な姿に会えることを喜びと考えた方がいい。治療中は長く感じる時間も過ぎてみれば早いといった話がありました。

また、病気を治すためには好き嫌いなく何でも食べて免疫力を高めてほしい。免疫力を高めるには笑いが良いというので子どもの前では大いに笑ってあげたらいいという話もありました。

▽小学3年男の子、リンパ性白血病、8月から治療をはじめ来週一時退院ができるまでになった。次は正月明けに再入院の予定。

先生から放射線をどうしますかと言われるが親としては分からない。

また、一時退院の間は地元の学校に行くようにいわれたが本人もあまり気乗りでないようだ。親としては地元の学校に戻っても毎日学校に行ける体調でもないだろうし、冬で風邪ひきも多いと思うのでできれば病院の院内学級に通わせたいがどうだろうか。

先生は地元の学校に顔を出さないと今後行きにくくなるのではないかと心配をされているのではないか、また今院内学級がいっぱいだという状況もあるのではないか、という話も出ましたがいずれにしても先生とよくお話をすることになりました。

▽長泉町のがんセンターがオープンしこども病院から1人の方が転院され入院されたということです。また数人が外来で診察を受けているとのこと。

東部地区待望のがんセンターですが行ってみると近所の人がボランティアでいて診察を受けにくい、とか「がんセンター」という名前に抵抗があって行けない、という方もおられるようです。

▽キワニスドールをたくさん頂きましたので奈良先生に預けました。希望者は先生か看護婦さんにお問い合わせ下さい

<第89回 ほほえみの会>

6名と奈良先生が参加しました

▽小学2年女の子、リンパ性白血病、4月から治療開始8月に新しく導入された詳しい検査をしたところ状況は悪いことが分かった。今後化学療法に加えて放射線をするに。もうすぐ退院で通院治療も目の前だと思っていた時なのでショック。再発ではないといわれても落ち込む。

次回は 12月14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス

klikeda@mx1.s-cnet.ne.jp

ホームページ

http://homepage3.nifty.com/hohoemi/